

3.4 多自然川づくり・環境整備事業の検討

検討結果に基づき、各河川の地域特性を考慮のうえ、環境便益として計測可能なように整備事業内容について検討する。

なお、現段階では各河川とも具体的に環境整備事業を実施するかについても未定である。

このため、環境便益を計測するために、仮定とはいえ具体的な整備メニューを住民に提示することは、現時点では問題が多い。

そこで、本検討では、各河川に必要と思われる環境整備内容の方向性を設定し、環境便益の計測にあたっては、その方向性と同種の事業が実施された他河川の整備事例をとりまとめるものとした。

3.4.1 源河川における環境整備事業の検討

源河川の現状や問題点より、源河川にふさわしい整備内容としては、以下の項目に示すように、河川内ではなく、周辺の利活用の向上に向けたものが挙げられる。

- ・ 駐車場
 - ・ トイレ
 - ・ ゴミ捨て場
- 等

また、源河地区を対象として実施したワークショップでは、住民から、以下のような意見が得られた。

- ・ 河口から取水堰の区間は川に近づく箇所が無い
 - ・ 利用者が川や周辺の畑で用をたすので困る
 - ・ 駐車場が無いため、路上駐車が多く困る
 - ・ よそからの利用者を減らしてほしい
- 等

さらに、昨年度実施した県民アンケート（沖縄県の自然環境に関する県民アンケート）調査の結果をみると、沖縄本島北部の川に対するニーズとしては、以下の項目が挙げられる。

- ・ 広場、休憩場所の整備
- ・ 赤土等流出防止対策
- ・ 水質浄化対策

以上の結果を踏まえ、源河川における環境整備事業の方向性は、以下の通り設定する。

川に近づきやすくするために、護岸の傾斜を緩やかにし、また川の利用者のために、トイレや駐車場等の施設を整備する。

環境便益を計測するための整備イメージとしては、同種の環境整備が実施された以下の2例について取りまとめた。

① 比謝川（沖縄市）

整備内容：急な護岸を撤去し、緑豊かな緩い傾斜地や遊歩道を整備した

② 奥川（国頭村）

整備内容：緑豊かな緩い傾斜地やトイレ、駐車場等を整備した

各河川の整備内容について、以下に示す。



図 3.4.1 整備例① 比謝川（沖縄市）



図 3.4.2 整備例② 奥川（国頭村）

3.4.2 田原川における環境整備事業の検討

田原川の現状や問題点より、田原川にふさわしい整備内容としては、以下の項目に示すように、河川内の自然環境を良好に保ちつつ、人々が川と親しむことができるものと考えられ、整備内容としては、以下の項目が挙げられる。

- ・ マングローブ林の活用（ボードウォークや散策路など）
 - ・ 湿地内環境の保全
- 等

また、源河地区を対象として実施したワークショップでは、住民から、以下のような意見が得られた。

- ・ 田原川の水の流れが悪くなり生物が減少した
 - ・ 海水の遡上が少なくなり、水草の繁茂やジャンボタニシが増加し、農業に影響を与えている
 - ・ 環境に良い田原川であって欲しい
 - ・ 昔は魚とりや洗濯に田原川を利用していた
- 等

さらに、昨年度実施した県民アンケート（沖縄県の自然環境に関する県民アンケート）調査の結果をみると、八重山地方の川に対するニーズとしては、以下の項目が挙げられる。

- ・ 生活排水等の水質の改善
 - ・ 散策路の整備（散策、ジョギング等の利用を促進）
 - ・ 河川の自然再生・創出（魚、エビ、カニ等）
- 等

以上の結果を踏まえ、田原川における環境整備事業の方向性は、以下の通り設定する。

川とふれあい、遊び・学べるような自然環境学習の場や木陰をつくり、川を中心に人々が集う川づくり。

環境便益を計測するための整備イメージとしては、同種の環境整備が実施された以下の2例について取りまとめた。

- ① 国場川の漫湖（那覇市）
整備内容：湿地帯やマングローブ林を活用した環境整備
- ② 漢那ダム第二貯水池（宜野座村）
整備内容：環境学習の場としての湿地帯の整備

各河川の整備内容について、以下に示す。



図 3.4.3 整備例① 国場川の漫湖（那覇市）



図 3.4.4 整備例② 漢那ダム第二貯水池（宜野座村）